

## 国際社会学部

# 小田原 琳

ODAWARA Rin

コース／地域

歴史学



## 近現代イタリアとは

専門は近現代のイタリアです。近代化と国家統一の進んだ19世紀半ばから第二次世界大戦後にかけて、イタリア半島では、リソルジメントと呼ばれる近代化運動や、初めての総力戦となった第一次世界大戦、他のヨーロッパ諸国とともに侵略に乗り出した植民地主義、個人の自由より国家が優先されるファシズム独裁と人種主義など劇的なできごとが数多く起こりました。「国民」をもたずに成立した国民国家は、ユダヤ系の人々などを排除しながら、国民の輪郭を描いていったのです。第二次世界大戦後には、このような過去の反省を踏まえて民主主義的な社会を建設する試みが、政治的にも市民社会においても、思想と実践の両面において追求されました。

## 研究紹介

「イタリア」という国家ができたからといって、そこに暮らす人々が急に「イタリア人」になるわけではありません。そのように感じさせるためのさまざまな仕掛けが、国民国家という政治と文化にはあります。近代化とともに生のあり方が大きく変わった人々が、どのように新しい時代を生き、何を考え、感じ、行動したのかを知るために、ジェンダー史、感情史、ボーダerland（境界地域）研究、グローバル・ヒストリーなどの手法を使って研究しています。

## 担当授業

- イタリア地域研究基礎
- 近現代イタリアにおける境界化・再境界化
- イタリア近現代史・地域社会研究：グローバル・ヒストリーの視点から
- イタリア近現代史・地域社会研究：歴史への批判的な視点
- ジェンダー史概論

## 関連する分野

- 近代史
- ジェンダー史
- 感情史
- グローバル・ヒストリー

## 出版物

イタリア近現代史

- 『イタリア料理の誕生』（翻訳）
- 「〈境界〉をつくりだす力」『歴史を学ぶ人々のために』

感情史

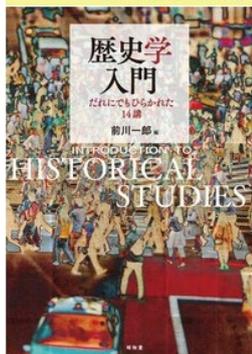
- 『感情史とは何か』（翻訳）

ジェンダー史

- 「ジェンダー」『歴史学入門』
- 「コロナリズム」「戦時性暴力」『論点・ジェンダー史学』

グローバル・ヒストリー

- 『グローバル・ヒストリー』（翻訳）



## 国際社会学部

# 近現代イタリアの歴史と社会 ゼミ



### どのようなゼミか

このゼミの目的は、イタリアを中心として、国家や国民、その歴史について私たちがもっている統合的で均質的、非時間的なイメージを問い返し、多様で豊かな人々の生のあり方に、歴史や社会、文化を検討することを通じて接近すること、さらにそこから、私たち自身が投げ込まれている社会や現代世界への理解を深めることです。イタリア以外を対象とするゼミ生も毎年います。

歴史を書くという営みには長い伝統がありますが、近代以降に成立した学問としての歴史学は、イタリア史、日本史など、「国家」という枠組みの強い拘束のもとにあります。イタリアという地域の長い歴史のなかで、国家としてのイタリアが存在するのは近代以降のごく短い期間であり、いわば私たちは、現在の枠組みを過去にさかのぼって投影しているとも言えます。過去を現在のまなざしで見るとは、歴史叙述に必要な前提である一方、過去の人々は私たちとは異なる世界を生きているので、過去を他者として見ることも必要です。そのための手法が、ジェンダー史であり、感情史であり、グローバル・ヒストリーであると私は考えています。

現在とは異なる時代と世界を生きた人々と出会うことを通じて、私たち自身と出会いなおし、歴史と現在をつなぐことができたら、歴史はもっとおもしろくなるのではないのでしょうか。



### 卒論

- イタリアにおける「移民」の歴史と現在
- 高齢者福祉の日伊比較
- スローフード運動
- ファシズムとその文化、記憶
- 国民統合政策、ナショナリズム
- 国民の分断の経験と記憶
- 南部問題、地域問題
- イタリアにおけるジェンダー

### おススメの本

- 北村暁夫『イタリア史10講』
- 北村暁夫・伊藤武編著『近代イタリアの歴史』
- ゼバスティアン・コンラート『グローバル・ヒストリー』
- 弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史』